



アサヒ飲料 環境データブック 2022

目次

●環境方針	2
●環境マネジメント	3
●ISO14001実施計画	6
●マテリアルバランス	8
●環境会計	9
●データ集	
(物流・自動販売機・オフィス・工場)	10
●ガイドライン	12
●社外評価	13

報告対象範囲

アサヒ飲料(株)、カルピス(株)

一部、下記子会社の報告を含みます。

アサヒ飲料販売(株)、アサヒオリオン飲料(株)、

九州アサヒ飲料販売(株)、(株)ミチノク

報告期間

2021年度(2021年1月~12月)の活動を中心に
以前からの取り組みや、直近の活動報告も含めています。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

CSV報告の構成とメディア

●CSVサイト

アサヒ飲料が掲げているマテリアリティ(健康、環境、地域共創)の実現に向けて重点的に取り組んでいる活動や、アサヒ飲料らしい活動を、コンパクトに分かりやすく紹介しています。

●環境データブック(本PDF)

環境への取り組みに関する各種データをまとめています。

アサヒグループ全体のビジョン、方針、実績などは、アサヒグループホールディングス(株)サステナビリティサイトおよびアサヒグループ統合報告書に掲載しています。

環境方針

アサヒ飲料グループ 環境方針

環境スローガン

未来に安全安心で快適な地球を。

基本理念

事業基盤である地球を、健全な状態で未来に引き継ぐために、持続可能な社会の実現に向けて行動します。

行動指針

- 1.環境関連法令、社会のルール、コンプライアンスを遵守します。
- 2.事業活動全体において環境に及ぼす影響を評価し、継続的な負荷低減に取り組みます。
 - (1)環境配慮素材の導入やリデュース推進等の継続により、持続可能な容器包装を推進します。
 - (2)省エネルギーを継続し、CO₂・フロンなどの温室効果ガス排出削減を推進します。
 - (3)私たちにとって貴重な「水」を大切に、水資源の保全・持続可能な水利用を推進します。
 - (4)省資源を推進し、廃棄物の削減・資源の有効利用、リサイクルに努めます。
 - (5)環境配慮した原材料の使用推進と調達効率化により、持続可能な原材料調達に努めます。
- 3.ステークホルダーと共に、環境に対しポジティブな価値を創造します。
- 4.環境への取り組みを適切に情報開示し、社会とのコミュニケーションを大切にします。
- 5.環境に対し社員一人一人が主体的・積極的に考え、行動します。

(2022年1月改定)

[Web](https://www.asahigroup-holdings.com/csr/environment/policy.html) アサヒグループ環境基本方針、アサヒグループ環境ビジョン 2050
<https://www.asahigroup-holdings.com/csr/environment/policy.html>

環境マネジメント

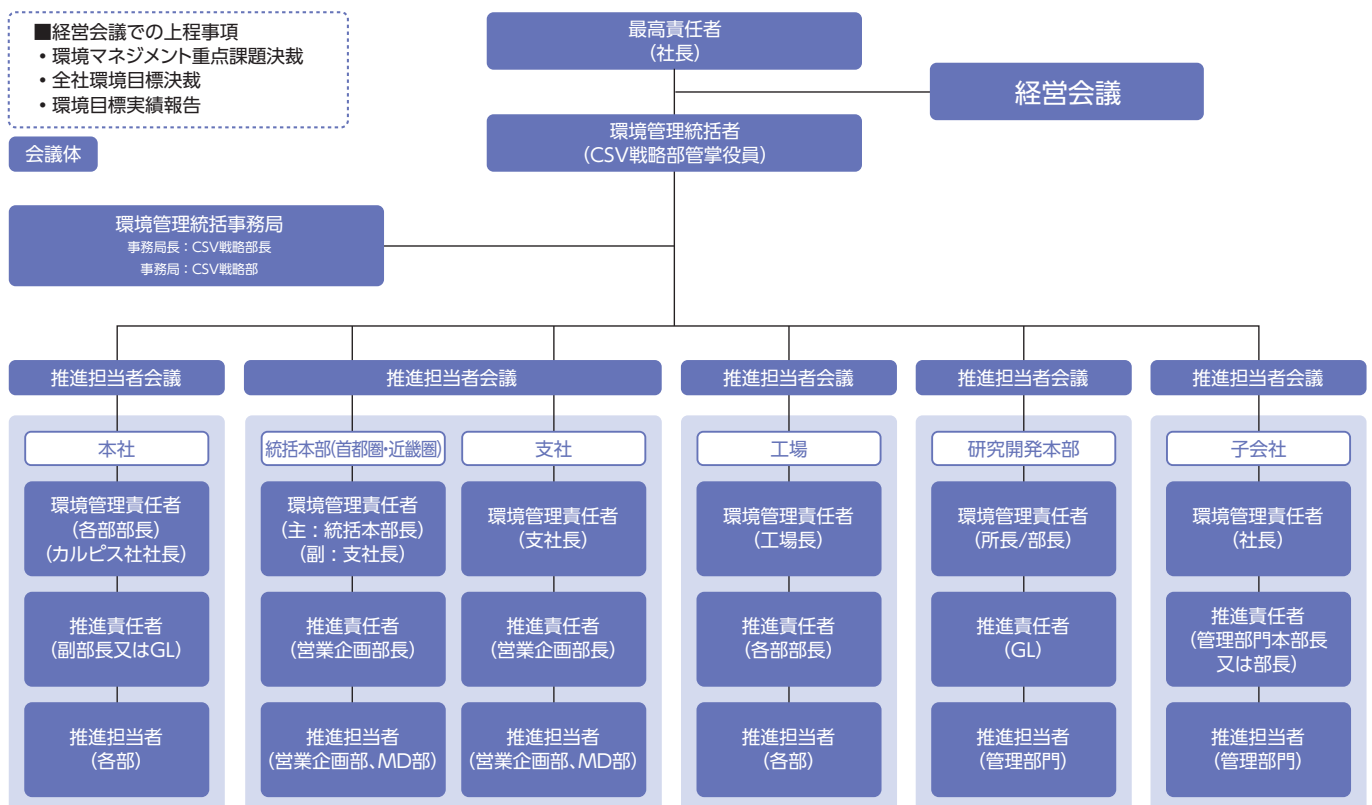
環境マネジメント体制

アサヒ飲料では、子会社を含めたアサヒ飲料グループとして環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の統合認証を取得し、継続的に環境マネジメントシステムを改善、運用しています。環境目的・目標を設定し、Plan(計画)・Do(実行)・Check(点検)・Action(改善)というPDCAサイクルを運用して、環境負荷低減を継続的に進めています。

■推進体制

社長を最高責任者とした体制のもと、環境管理統括者(CSV戦略部管掌役員)を実行責任者、「経営会議」を上位意思決定機関として組織し、本社・統括本部・支社・工場・研究開発本部・子会社の各サイトと連動しています。「経営会議」にて、環境マネジメントシステムにかかわる審議・決裁を行い、環境目的および目標の審議、決定や、環境マネジメントシステムの実施状況の確認を行っています。

環境マネジメント推進体制



環境マネジメント

■ISO14001 認証取得状況

アサヒ飲料グループでは、2000年より各事業所単位で認証を取得し、規格にのっとった環境活動を展開してきました。2019年に、子会社4社の新規認証およびアサヒグループで統合認証を取得し、以後アサヒ飲料グループとして全社認証を維持しています。

アサヒ飲料グループ 環境マネジメントシステム取得状況

工場/事業所	認証取得
カルピス(株)岡山工場※1	2000年6月
アサヒ飲料(株)北陸工場	2000年9月
アサヒ飲料(株)明石工場	2000年10月
カルピス(株)群馬工場※2	2000年12月
カルピス(株)全社	2003年6月
アサヒ飲料(株)富士山工場	2006年7月
アサヒ飲料(株)六甲工場	2015年9月
アサヒ飲料(株)研究開発本部※3	
アサヒ飲料(株)本社・統括本部・支社	2016年4月
アサヒ飲料グループ 統合認証	2016年6月
アサヒグループ拡大統合認証※4	2018年8月
アサヒグループ統合認証※5	2019年8月

※1 現アサヒ飲料(株)岡山工場、カルピス(株)岡山工場

※2 現アサヒ飲料(株)群馬工場、カルピス(株)群馬工場

※3 アサヒグループ研究開発センター全体で認証

※4 アサヒグループホールディングス(株)、アサヒ飲料(株)、カルピス(株)、アサヒグループ食品(株)、アサヒプロマネジメント(株)5社での認証

※5 ※4に記載の上記5社のほか、子会社(アサヒ飲料販売(株)、アサヒオリオン飲料(株)、アサヒみどり販売(株)(現九州アサヒ飲料販売(株))、(株)ミチノク)およびアサヒビール(株)10社での認証

■ISO14001 外部審査

アサヒ飲料グループを含むアサヒグループでの環境マネジメントシステムISO14001規格の認証維持のため、2021年5月から6月に外部審査を受審しました。軽微な不適合2件(うちアサヒ飲料グループ0件)の処置を実施し、2021年9月にアサヒグループとしてISO14001規格認証維持が承認されました。

審査実施期間:2021年5月17日~6月17日

監査対象拠点:本社9部署、1支社、1支店、4工場

子会社3社(アサヒ飲料販売2支店、

九州アサヒ飲料販売、ミチノク)

■ISO14001内部環境監査

アサヒ飲料グループの環境マネジメントシステムがISO14001規格に適合し、適切に実施・維持管理されていることを確認するため、内部環境監査年間計画に則って、各事業所を訪問し環境法令の順守状況や実施計画の進捗状況等を検証しています。コロナウイルス感染拡大防止対策として2020年から引き続き、従来の往査からオンラインによる監査に切り替え実施しました。不適合0件、要改善13件と環境法令に関する指摘事項が抽出されましたが、計画的に是正対応を進め再発防止に努めています。また、事業所の指摘事項を会議体で水平展開することにより他事業所での類似指摘の防止に繋げるなど、環境マネジメントシステムの有効性の向上に努めています。

実施期間:2021年2月16日~12月8日

対象拠点:本社8部署、2統括本部、3支社、
3工場(1分工場含む)、子会社4社

■環境関連の重大事故・ご指摘発生状況

アサヒ飲料グループは、ISO14001の管理手法に基づいて環境リスクの把握や抑制に取り組んでいます。2021年度、アサヒ飲料グループにおいて環境にかかわる重大な事故・ご指摘はありませんでした。

環境マネジメント

■環境教育

環境マネジメントのより効果的な推進のために、対象や目的に合わせて環境教育を実施しています。全従業員、新入社員には、環境活動に関する基本的な知識と自覚をもつことを目的に環境一般教育を、ISO14001推進担当者には、内部環境監査を実施できるスキル取得を目的とした内部環境監査員研修などを実施しています。

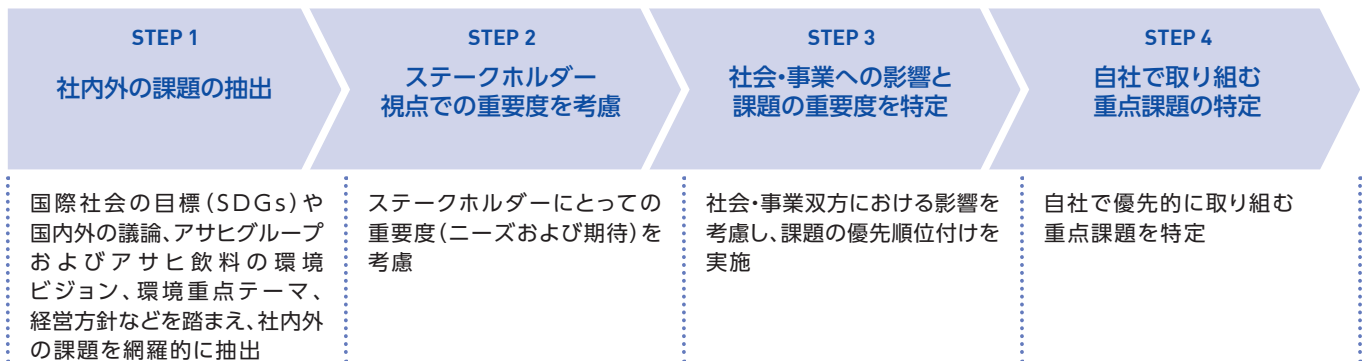
2021年度に実施した環境教育

名称	対象	実施月	人数
環境一般教育	新入社員	2021年4月	62名
	全従業員	2021年1-2月	3,603名
内部環境監査員研修	新任のISO14001推進担当者	2021年5、10、11月	44名
専門教育	専門知識・資格を要する業務従事者		

■アサヒ飲料グループ 環境マネジメント重点課題

社会より、原材料の調達から、製造、流通、販売、消費、廃棄、リサイクルに至るまでバリューチェーン全体や製品のライフサイクル視点による、全社レベルでの環境経営が強く求められています。昨今の社会情勢や事業環境の変化を踏まえ、より効率的で実効性の高い環境への取り組みの実現のために、自社で優先的に取り組む重点課題を特定しています。

環境マネジメント重点課題の特定プロセス



特定されたアサヒ飲料グループ 環境マネジメント重点課題は以下のとおりです。

- 温室効果ガス削減
- 持続可能な容器包装
- 持続可能な原材料調達
- 資源の有効利用
- 水資源保全、持続可能な水利用

ISO14001実施計画

2021年度 環境目標・実績

達成基準の評価：達成：○、未達成：×

重点課題	環境目標	実績	評価
温室効果ガス削減	オフィスにおけるCO ₂ 排出量の削減：前年度以下	前年比 39.1%削減	○
	車両におけるCO ₂ 排出量の削減：前年度以下	前年比 5.5%削減	○
	製造における燃料+電力使用量の削減 全社工場：前年比1%以上削減(原単位)	前年比 2.8%削減	○
	物流DCにおけるCO ₂ 排出量の削減 ：前年度以下	前年比 4.2%削減	○
	輸配送におけるCO ₂ 排出量の削減 ：前年比1%以上削減(原単位)	前年比 0.7%増	×
	自動販売機におけるCO ₂ 排出量の削減 ：ヒートポンプ式自動販売機※ 導入率93.4%以上	93.4%	○
持続可能な容器包装	リサイクルPET・環境配慮素材の含有量：年次目標達成	目標比 92.6%	×
	リデュースの推進:ラベルレス商品展開回数：年次目標達成	目標比 190.3%	○
	新容器開発・仕組みづくり：年次目標達成	5案創出	○
持続可能な 原材料調達	バイオマスインキラベルの展開拡大 FSC認証取得完了・商品展開	計画通り	○
資源の有効利用	販促品の使用率向上：年次目標達成	目標比 101%	○
	販促品+商品見本等の廃棄削減(営業拠点)：年次目標達成	目標比 35.3%減	○
	製造雑損削減：年次目標達成	目標比 41.1%減	○
	長期在庫品発生抑制：年次目標達成	目標比 1.5%減	○
	廃棄損削減：年次目標達成(製品・原材料)	目標比 50.5%減	○
水資源保全、 持続可能な水利用	製造拠点における水利用量削減:前年比1%以上削減(原単位)	前年比 2.9%	○
	自社全工場での水源地保全活動推進	計画通り(自社全5工場実施)	○

※自動販売機内で商品冷却時に排出される熱を回収し、加温販売商品の加熱に利用する機能を搭載した機器

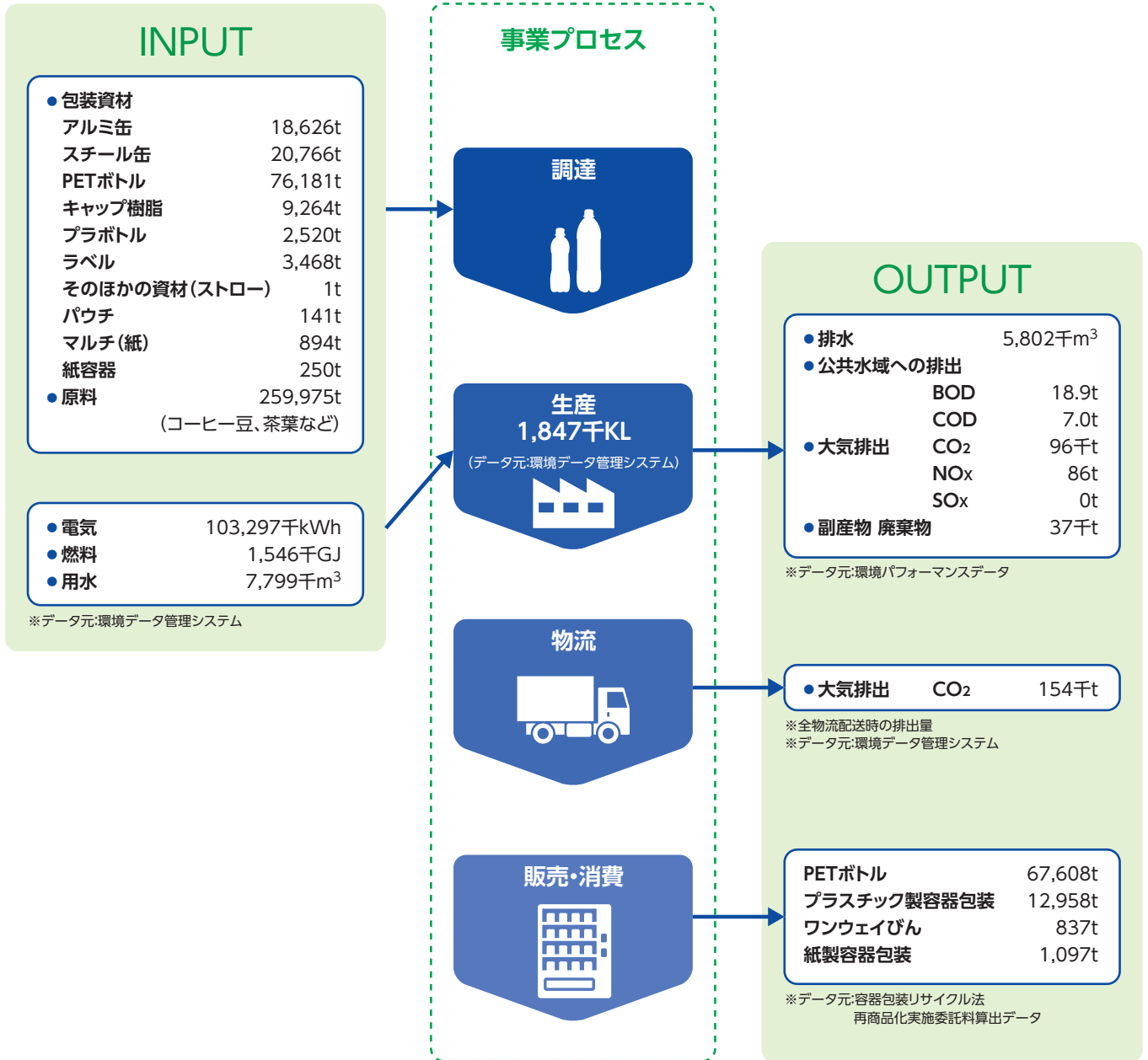
ISO14001実施計画

2022年度 環境目標

重点課題	環境目標
持続可能な容器包装	環境配慮素材の導入(リサイクルPET、環境配慮資材の使用):年次目標達成
	リデュースの推進(容器包装軽量化、ラベルレス商品の拡大):年次目標達成
温室効果ガス削減	製造拠点：原単位1%以上
	オフィス：前年実績以下
	車両：前年実績以下
	輸配送：原単位1%以上
	自動販売機：ヒートポンプ式自動販売機導入率：年次目標達成
水資源保全、 持続可能な水利用	製造拠点における水利用量削減：前年比1%以上削減(原単位)
	自社全工場：水源地の森保全活動実施
持続可能な 原材料調達	FSC認証 NB改廃品への展開率：年次目標達成
	原材料集約・購入ロット見直し：年次目標達成
資源の有効利用	販促品使用率向上：年次目標達成
	長期在庫品発生抑制：年次計画達成
	廃棄損削減：年次目標達成

マテリアルバランス

対象期間:2021年1月~12月、算出範囲:自社工場7拠点



環境会計

集計範囲：アサヒ飲料(株)、カルピス(株) 対象期間：2021年1月1日～2021年12月31日、2020年1月1日～2020年12月31日
環境保全コスト(単位：百万円)

分類	主な取り組みの内容	2021年度		2020年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
【1】生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		187	1,288	711	1,180
内訳	① 公害防止コスト	140	586	642	576
	② 地球環境保全コスト	32	475	20	396
	③ 資源循環コスト	15	227	49	208
【2】生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上下流コスト)	● 容器・包装再商品化委託料	0	457	0	379
【3】管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	● ISO14001の取得・維持のための取り組み ● 環境教育のための費用	0	40	0	50
【4】研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	● 容器包装開発業務における環境保全に係る研究・開発	52	175	18	99
【5】社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	● 公害賦課金など ● 緑地管理費用 ● リサイクル団体の会費	0	42	0	53
【6】環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		0	0	0	0
合計		239	2,002	729	1,761

環境保全効果(環境保全対策に伴う経済効果)(単位：百万円)

効果の内容	2021年度	2020年度
廃棄物再資源化による有価物の売却収入総額※1	34	39
産業廃棄物減容化施策による費用削減金額※2	0	0
省エネルギー施策による費用削減額※3	42	72
合計	76	111

※1 廃棄物再資源化に伴い、売却によって得られた収入総額を記載しました。
 ※2 2021年度および2020年度に実施した施策によって減容化できた効果額を記載しました。
 ※3 2021年度および2020年度に実施した施策によって削減したエネルギーの削減効果額を記載しました。

当該期間の設備投資の総額(単位：百万円)

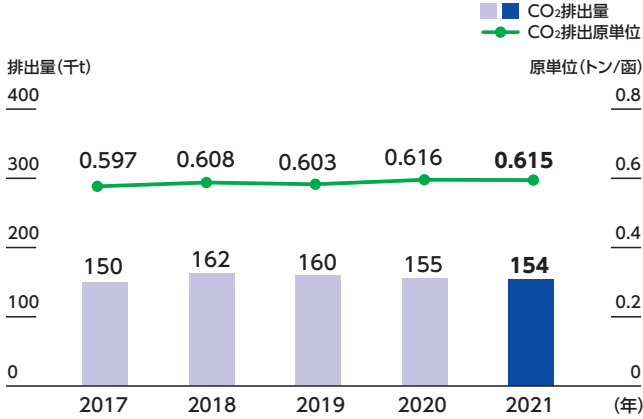
分類	2021年度	2020年度
設備の更新、品質改善及び合理化のための投資等※	2,304	9,448

※ アサヒビール(株)名古屋工場、物流関係投資は除く。

データ集 …物流／自動販売機／オフィス

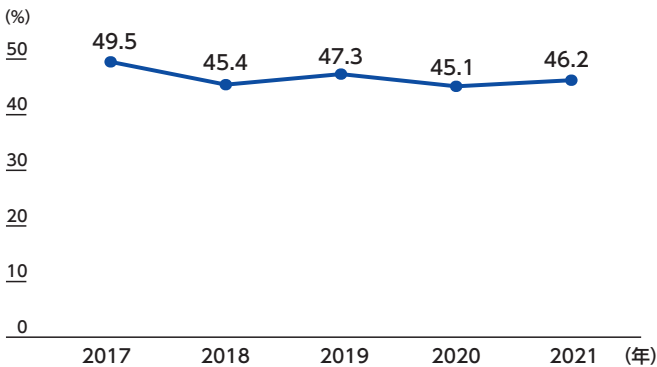
物流

CO₂排出量とCO₂排出原単位



2021年度は、自社工場の生産比率が高まり、長距離転送が増加しましたが、定期運行便の頻度の見直しや出荷拠点までの転送回数の削減を図れたことで、転送に係る輸送量が減少しました。その結果、前年からCO₂排出量およびCO₂排出原単位が改善いたしました。

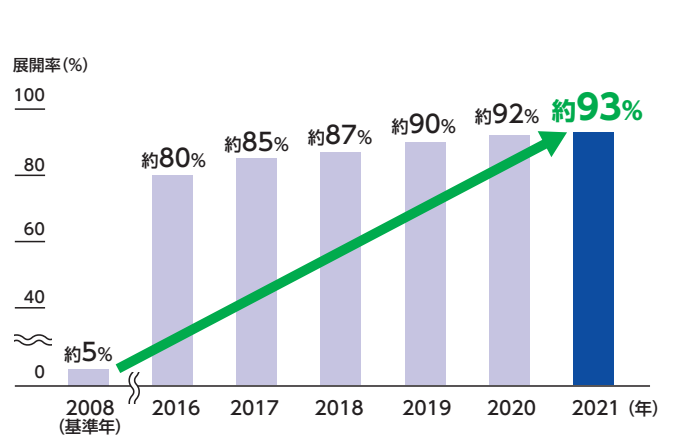
長距離輸送におけるモーダルシフト率



2021年度は、自社工場での生産比率が高まり、長距離転送が増加し、船舶の利用が高まりました。その結果、モーダルシフト率は46.2%となりました。

自動販売機

ヒートポンプ式自動販売機の展開率



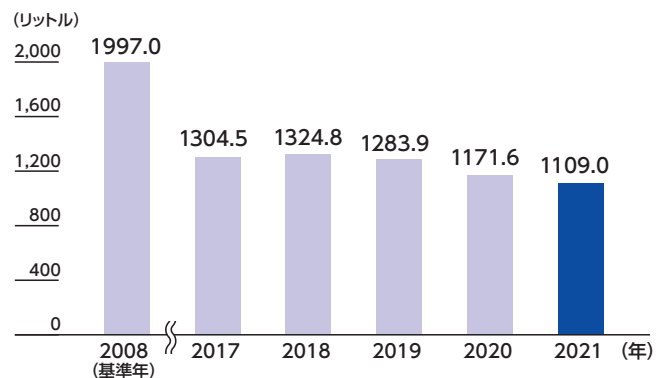
既存の非ヒートポンプ式自動販売機からの交換、および新規設置時のヒートポンプ式自動販売機の導入により、2021年度は目標展開率93%以上に対して計画通り約93%となりました。

自動販売機廃棄処理時のフロンガス回収・破壊量

年度	回収・破壊量 (単位:t)
2016年度	2.8
2017年度	2.5
2018年度	1.8
2019年度	3.9
2020年度	4.9
2021年度	4.5

オフィス

営業車両1台あたりの燃料使用量



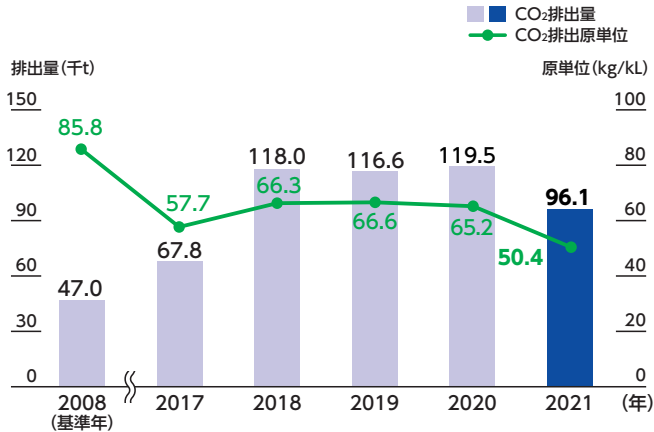
2021年度は、働き方改革、オンライン商談の継続、エコドライブの継続により、前年度以下の目標に対して5.3%削減となりました。

データ集 …工場

工場

■全工場トータルデータ

CO₂排出量とCO₂排出原単位の推移



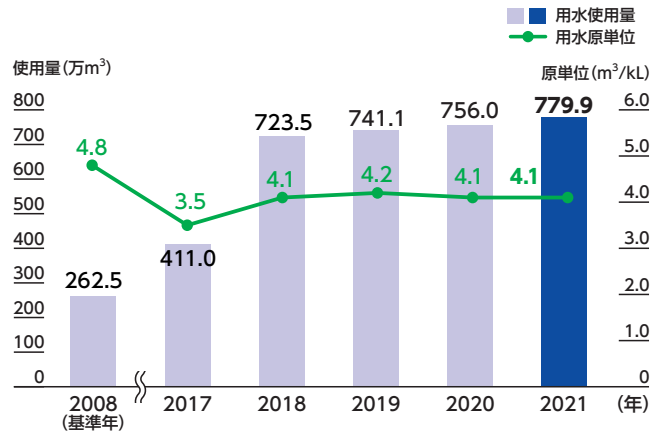
2021年度は再生可能エネルギー由来の電力への切り替え並びに各工場での省エネ施策の推進により、1kLあたりの飲料製造に対するエネルギー効率を示すCO₂排出原単位、およびCO₂排出量は、前年度より減少しました。

※2018年1月カルピス(株)岡山工場、群馬工場の再編に伴い、自社5工場に2工場の実績を追加しました。

排出物発生量(2021年度)

廃棄物の種類	排出量 (t)
動・植物性残渣	11,345
汚泥	9,594
廃酸	5,953
廃プラスチック類	561
金属くず	329
ガラスくず・コンクリートくずおよび陶磁器くず	381
その他(混合物)	194
木くず	91
廃油	12
燃え殻	3
廃アルカリ	1
がれき類	0
特別管理産業廃棄物	0
廃蛍光灯類	0
一般廃棄物	87
専ら物	257
有価物	1,389
合計	30,197

用水使用量と用水原単位



2021年度は、省エネ施策の推進により、1kLあたりの飲料製造時の利用効率を示す、用水原単位は0.03m³/kL向上しましたが、生産量の増加により、用水使用量は前年比103.2%となりました。

※2018年1月カルピス(株)岡山工場、群馬工場の再編に伴い、自社5工場に2工場の実績を追加しました。

廃棄物再資源化100%の達成状況

達成年度	工場名
1998年度	明石工場、北陸工場
2002年度	富士山工場
2011年度	六甲工場
2015年度	群馬工場、富士吉田工場
2016年度	岡山工場

ガイドライン

アサヒ飲料グリーン購入ガイドライン

発効 2001年9月

1.基本方針

事務用品、資材、什器、販促品、制服など衣類の購入に際しては、環境負荷の低減に寄与するグリーン購入を推進する。

2.目的

環境保全活動の推進に寄与する。

3.目標

PET再利用品などエコ商品が開発されているものについては、100%購入を目指す。

4.購入の基準

エコマーク、環境ラベルのついている商品を優先的に購入する。取引業者選定にあたっては、エコ商品を取り扱っている業者を優先する。

5.範囲

オフィスで使用する消耗品。オフィスで使用する機器類。事業活動で使用する資材・器具類、衣類、販促品。

6.コスト増への対応

グリーン購入をするためにコスト増が見込まれるときは、各事業所の判断に委ねる。無駄をなくす努力などで、コスト増を吸収し、グリーン購入を推進する努力をする。

7.そのほか

本ガイドラインは、社会状況の変化や新たな知見によって、必要に応じて改定される。

社外評価

表彰受賞または認定年(月)	主催団体名	表彰受賞名または認定内容	会社名または事業所
2021年12月	令和3年度 グリーン物流パートナーシップ 優良事業者表彰	アサヒ飲料社と日清食品社にて重量の異なる製品を混載するスキーム構築による環境負荷低減が評価され、「経済産業省 商務・サービス審議官表彰」を受賞	アサヒ飲料株式会社 (他2社)
2021年11月	公益財団法人日本デザイン振興会	「アサヒ おいしい水 天然水 シンプルecoラベル」PET585mlのタックシールを用いた環境配慮が評価され、2021年度「グッドデザイン賞」を受賞	アサヒ飲料株式会社
2021年	令和3年度 高圧ガス優良事業所褒章	富士山工場の環境効率性維持のための高圧ガスの保安・防災活動が評価され、令和3年度「優良事業所褒章(静岡県環境・産業保安機構)」を受賞	アサヒ飲料株式会社 富士山工場
2020年	ワールドスターコンテスト2020	「三ツ矢サイダー」PET1.5Lの業界初となるライシンキ使用、バイオマス度80%のラベル採用が評価され、飲料部門「WORLD STAR賞」を受賞	アサヒ飲料株式会社
2019年11月	第56回全日本包装技術研究大会	国内最軽量となる炭酸飲料用キャップの開発と展開が評価され、「優秀発表賞」を受賞	アサヒ飲料株式会社 (他1社)
2019年8月	2019日本パッケージコンテスト	「三ツ矢サイダー」PET1.5Lの業界初となるライシンキ使用、バイオマス度80%のラベル採用が評価され、「飲料包装部門賞」を受賞	アサヒ飲料株式会社 (他1社)
2019年5月	第43回 公益社団法人 日本包装技術協会 木下賞	国内最軽量炭酸飲料用キャップの開発と展開が評価され、「改善合理化部門」を受賞	アサヒ飲料株式会社 (他1社)
2018年	ワールドスターコンテスト2018	「三ツ矢サイダー」PET1.5Lのバイオマス度75%ラベル-全包装資材に植物由来原料を使用した取組みが評価され、飲料部門「WORLDSTAR賞」を受賞	アサヒ飲料株式会社 (他1社)
2018年5月	第42回 公益社団法人 日本包装技術協会 木下賞	「三ツ矢サイダー」PET1.5Lのバイオマス度75%ラベル-全包装資材に植物由来原料を使用した取組みが評価され、「包装技術賞」を受賞	アサヒ飲料株式会社 (他1社)
2017年11月	公益財団法人日本デザイン振興会	「三ツ矢サイダー」PET1.5Lの全包装資材に植物由来原料を使用した取組みが評価され、2017年度「グッドデザイン賞」を受賞	アサヒ飲料株式会社
2017年8月	2017日本パッケージコンテスト	「三ツ矢サイダー」PET1.5Lのバイオマス度75%ラベル-全包装資材に植物由来原料を使用した取組みが評価され、「飲料包装部門賞」を受賞	アサヒ飲料株式会社 (他1社)